

なんごうり



その壮大なプロジェクトは「理想の

特集 私たちの身近な神さま 仏さま
この人に会いたい！

この人に会いたい！

南郷里地域づくり協議会
文化と健康スポーツ部会長
宮垣秀太郎さん(宮司町)

長浜城歴史博物館友の会副会長の重責を任される一方、ボランティアガイド協会の一員として歴史や文化を紹介、人形浄瑠璃の富田人形共遊団では太夫として活躍。十一年前にリタイアしてから毎日を忙しく過ごす宮垣さんの活動に共通するのは地域の「歴史」です。興味を持つきっかけとなったのは、公務員として滋賀県内を巡った現役時代、地元の方から聞いたそれぞれの土地の歴史話でした。中でも心惹かれたのは、東近江市の「雪野山古墳」。「卑弥呼が持ったとされる銅鏡が発掘されたということとは

由緒正しい豪族がかつてこの地に居たということ。それを考えるとワクワクする」。約三十年前に転入してきた南郷里地域にも、縄文遺跡や古墳がありました。由緒ある神社もあるし偉人も輩出しています。

地元の歴史を守る

そんな魅力ある南郷里の歴史について宮垣さんが危惧しているのは、地域の大切な歴史資料が廃棄されてしまうこと。そうならないよう保存する人が各町に現れ、南郷里でチームを作れるといいなあ、と構想しています。多くの人に地元の歴史に興味を持ってほしい。その足掛かりとして「まず、地元のお宮さんに祀られている御祭神を知ってほしい」と宮垣さん。身近で奥深い南郷里の歴史沼に、一緒にハマってみませんか？



今回取材の榎木町のお地藏様群。詳しい方になかなか出会えず苦戦を強いられたものの、身近な存在の由来を改めて知ることができました。一方、神社3社の取材では、それぞれ近いところにあるのに、ご祭神は全く違った所から来られていることを知りました。それが実に興味深い…。うわっ！これって上述の宮垣さんの最後の発言通り！ 歴史沼にハマったら、宮垣さんの思う壺(笑)。

南郷里の歴史沼にハマって…

地域の歴史を伝える

「昨年、部会で『女流画家・加納凌雲作品展』を企画、加納町の方に呼び掛けたところたくさん作品が集まった。それぞれの家庭には歴史の資料がたくさんあるということがわかったし、歴史を知ってもらいたいきっかけになったと思う」。



今月の表紙

こんなところにコスモスが。日枝神社(宮司町)の手水(ちようず・てみず)舎に、さわやかな秋が広がっていました。神社の手水鉢に季節の草花をあしらった「花手水」は、コロナ禍以降、全国的に広がりました。日枝神社では、境内に咲く花を摘んであしらっているのだそう。ほっと癒やされますね。

私たちの身近な 神さま 仏さま

年末年始は、お寺や神社へとお参りする機会が増える時期。
その一方で近所にあるけど、あまり知らない、詳しくないという神仏も多いのでは？
ちょっとしたエピソードを添えて、南郷里学区からよりぬきの神さま仏さまを紹介します。

大皇神社

新栄に木地師がいた？ 元祖が御祭神

場 長浜市新栄町 424-1



▲大皇神社。御神体は、氏子の皆さんでも目にすることがないという

いるのも興味深いところです。
というものの、新栄で木地師が活躍したという歴史は見つかっていません。ただ、常喜町に常喜椀といわれるろくろ製の器が伝わっており、新栄に移り住んだ木地師との関わりが推測されてもいます。

御祭神は、木地師の元祖とされる惟喬親王（844～897）。天皇家の皇位継承に敗れ、永源寺の山中に逃げ隠れたときに「ろくろ」を考案発明し、その技を伝授された当地の住民が木地師（木材を原料にろくろでお椀などを作る人）として全国へ飛散し、広めたとされます。

新栄へも『惟喬親王の末裔』とされる木地師が移り住み、親王を祀ったことが大皇神社の由緒とされています。オコナイでは、宿主宅の座敷正面に、惟喬親王像のお軸を懸けるのがならわしになっています。

ちなみに木地師には小椋姓が多く、大皇神社の灯籠に刻まれた寄進者の名にも「小椋」の文字が読み取れます。氏子 20 戸のうち現在も「おぐら」さんがいらっしゃいますが「巨椋」と漢字表記が変わって

春日神社

1200 年以上の歴史、南郷里最古級の神社

場 長浜市大東町200



▲神聖な空気を感じるおもむき

集落の東の外れ、鎮守の杜という言葉がふさわしい、木々に包まれる神社。奈良の春日大社が総本社であり、もともと一帯が興福寺領だったことに由来するそう。
50 年ごと御鎮座を祝う祭りが執り行われているのが特徴で、定期の鎮座祭があるのは南郷里学区でここだけだといいます。神事の際には総本社からも参向があり、舞楽などが奉納されています。ちなみに御鎮座 1200 年の年となったのが 2020（令和 2）年のこと。ただ当時はコロナ禍のさなか。それでも大切なまつりごとということで厳かに執行されました。

大東町の自治会館の玄関には木の根株が飾られているのですが、実はこれは春日神社に植わっていた御神木の杉だそうです。「長浜のどこからでも見える」と言われるほどの巨木だったものの、倒木の危険を考慮して 30 年ほど前に伐採。その記憶の片鱗として会館に設置されています。また、現在参道の入り口には藤棚が整い、開花シーズンは名物スポットに。湧水は御神水として汲みに来る人も。



▲自治会館にある御神木の切り株

福の神地蔵尊

百以上のお地蔵様が一堂に

場 榎木町集落中央



▲ぎっしりと鎮座されるお地蔵様

地蔵盆では、毎年 8 月 15 日に町内の中学生が集まり、お参ります。子どもたちの健やかな成長を願い、仏さまを敬う気持ちが連綿と続いているのです。

榎木町の集落の一角に百体以上のお地蔵様がお祀りされています。その地蔵堂は「福の神地蔵尊」と呼ばれています。古い記録がなく不明なことが多いそうですが、この場所は、発掘調査の結果、もともと古墳があったことが分かっていて、古くから神聖な場所とされてきたと考えられます。

それにしてもなぜこんなにお地蔵様が多いのか……。かつて一帯は榎木百坊と呼ばれるほど、寺院や坊があったとされることに由来するようです。仏教が栄えた土地柄だったことがよくわかり、近年に至っても続々とお地蔵様が出土されているのだとか。

お地蔵さまに関わる行事としては、夏の地蔵盆が知られていますよね。町内にはあちこちにお地蔵様がおられるため、それぞれでお祀りされているのが風物詩となっています。この福の神地蔵尊の

足柄神社

神様と共にやってきた、能面打ちの技

場 長浜市七条町 700



▲大通りに面した足柄神社。通り過ぎる際一礼する町民の姿も

では別の面をつけています。

2001 年に発足した七条町まちづくり委員会では、この郷土の歴史を知ってもらおうと、2007 年に「イセキの能面」の講演会、展示会、能の上演会を開催。町内外から数百名の来場者を集めました。さらに 2009 年から数年間、能面師を招いて能面打ち体験教室も開催。こうして七条の誇る「イセキの能面」は、少なからず周知できたようです。

七条町では毎年5月5日に「春の例大祭」が催されます。クライマックスは、渡御を終えて神社に入ろうとする神輿を、「尉」と「姥」が獅子を伴って出迎えるシーン。以前、ここで二人は「イセキ」の銘が刻まれた能面をつけていました。

遡ること室町時代、神奈川県の足柄山箱根権現を勧請したとき七条に移り住んだといわれる井関家は、代々能面打ちを学び、江戸時代になると徳川家から「天下一」の称号を与えられるほどに。以前の例大祭で使われていたのは、2代目の井関次郎左衛門親政が打ったもの。これらは市の指定彫刻文化財となり長浜城歴史博物館に委託保管、現在、祭り



▲境内にある石碑

南郷里地区 14 社の宮司を兼務 日枝神社 木下雅之さん



▲当地の藩主だった堀田氏が寄進した灯籠を案内くださる木下さん

宮司町の日枝神社は、総持寺の鎮守社として 739 年に創建、春の祭礼では母衣武者や神輿、曳山「颯々館」が巡行することでも知られています。

宮司を務める木下雅之さんは、南郷里 14 社、市全域もあわせると計 21 社の宮司を兼務。今回紹介した大皇神社や春日神社、足柄神社も該当。大皇・春日の各社のエピソードは木下さんから教えていただいたものです。

ちなみに全国に神社は 8 万社あるのに対し、宮司は 1 万人のため、兼務が一般的。木下さんは「宮司が変わることもあるなかで、神社の歴史やしきたりが維持されているのは、氏子や地域の皆さんが大切に受け継いでくださっているおかげです」と話します。

日枝神社ではInstagramで情報を発信。多くの人に親しみをもってもらいたいとの思いから、木下さんが更新しています。ぜひチェックを！



▲日枝神社Instagram